ビジネス研究の効果的な成果報告方法：
国際学術論文におけるイントロダクション章のコーパス分析

中谷安男（法政大学）

キーワード：ビジネス研究論文分析　イントロダクション　コーパス分析

国際ビジネス研究成果の広い伝達には、世界的なジャーナルに研究論文を掲載するのが最も効果的な方法である。主要雑誌は英語による執筆が求められるが、これまで効果的な執筆方法に関して十分検証が行われているとは言えない（Bhatia, 2008）。論文採択には、独創的な研究課題や優れた研究・分析方法は必須である。だが Gosden (1993)の指摘のように編集者や査読者は、内容だけでなく、英文によるプレゼンテーション方法の適切さを重視する。具体的には、効果的に読者を誘導する重要な修辞的方略であるムーヴ（Move）を確立し、査読者が読みやすく、理解しやすく書く必要がある（Swales, 2004）。論文で特に重要な箇所は，読者の注意を喚起し，研究目的や手法を明確にするイントロダクションの章と考えられている（Swales, 1990）。しかし国際ビジネス研究分野では、この章の説得力ある方略を活用した書き方はあまり議論されていない。|本論はこの点に注目し、国際ビジネス分野の高インパクト・ファクターの 3 つの学術誌 Academy of Management Journal, Journal of Management, International Economic Review の論文を集めた大規模コーパスを活用し分析を行った。2006 年より 2017 年掲載の論文から，第一著者が英語母語話者と思われる 17 本をそれぞれ選定した。電子ジャーナルからダウンロードし，テキストファイルに変換し、合計 54 本の論文、総語数約 50 万語のコーパスデータを作成した。この中の Introduction として明記している章，また明記されていない場合は，同等の最初の章の総計約 8 万語を抜き出し Business Jornal Introduction Corpus を作成した。|このデータを米国の出版物で構築された 100 万語の代表的参照コーパス The Freiburg-BROWN と比較検証した。この目的は一般的な英文書に比べて、ビジネス研究論文のイントロダクション執筆の特徴の検証である。コンコンダンサーによる統計的手法 Keyword List により、語彙・クラスターの特徴的な英語表現を抽出した。結果として研究のスタンスを表す特定の時制を使い分けていた。また、テーマの独自性を際立たせるブースターやニッチの表現を活用しビジネス研究の成果を訴求する傾向が示された。